

## 琥珀

松浦 純子

今年映画「ジュラシックパーク」が公開されてから三十年。恐竜を刺して血を吸った蚊が琥珀に閉じ込められる。科学者がその蚊の血液から恐竜のDNAを採取してクローンを作る。そして、そのクローン恐竜たちがテーマパークから脱走して次々と人間を襲う、そんな話だったと思う。この映画を見た時、琥珀の中は絶対に触ってはいけないと恐怖を感じた。

さて、その琥珀であるが、これは木の樹脂が長い時間を経て化石になったものである。琥珀の中には蚊、蠅、木の葉、鳥の羽などゴミに近いものが入っていることが多い。たまたま粘着質の樹脂のところ止まっていた虫やくっついた葉、羽などが取り込まれたものである。ギリシア神話では、父である太陽神ヘリオスから借りて乗った戦車を息子は制御することができず、これを見たゼウスが戦車を撃ち落とした。その時彼の姉妹たちが嘆き悲しんで流した涙が琥珀になったという。

琥珀の有名な産地は、バルト海に面したポーランドのグダニスク沿岸やロシアの飛び地として有名なカリーニングラードである。これらの地域で世界の琥珀の大半を産出している。琥珀は昔から宝飾品として取引されていたが、古代の商人たちは「琥珀の道」を通して地中海方面まで商売をしていた。アドリア海のアクレイア、アッピア街道の終点ブルンディシウム、ブレンナー峠を越えてヴェローナ、地中海のマルセイユなどに向かった。これらの宝石は古代ローマの女性の首や手首を飾ったことであろう。

中世になると。琥珀はブリュージュで加工されて装飾品や宗教用小物として各地で用いられた。バルト海地方と地中海地方の間にあるフランスのシャンパーニュ地方などに定期市ができ、琥珀もそこで取引された。当時生産地はドイツ騎士団が占領していたので、彼らが独占販売権を持っていた。

今日でも琥珀はペンダントなどの装飾品として用いられている。ネットでは「虫入り琥珀」として販売されているものもある。中の虫たちが生き返ったら何と思うだろうか。